

川越市文化創造インキュベーション施設 (コエトコ) 旧栄養食配給所 復原工事について

(有)阿久津左官店
代表取締役 阿久津 一志

1. 復原工事の概要と施工のポイント について

川越市文化創造インキュベーション施設(愛称：コエトコ)は、川越市に残された貴重な建物である旧川越織物市場と旧栄養食配給所を復原し、令和6年(2024年)4月にオープンした施設である。特に、旧栄養食配給所は市指定有形文化財であり、昭和9年(1934年)に開業し、昭和20年(1945年)まで営業していた当時の姿を残す貴重な建築遺構で、昭和初期に全国的に設立された栄養食配給所の歴史を伝える稀少な例として、文化的にも極めて意義のある近代化遺産とされている。

本建物は、大きく分けて南から「住まい」「事務所」「作業場」の三部分で構成されており、旧織物市場へ向かう通路に面して並んでいる。北端部の作業所は昭和9年の開業時に建てられ、室内にカマドを設けているため、換気用に中心部を越屋根とした寄棟造鉄板平葺屋根の外観が特徴的である。昭和14年には、カマド1基増設のために事務所との間に増改築が行われた。事務所は明治43年(1910年)に織物市場が開設された当時の建物を基本として改造されたもので、戦後住居として使用されたため大幅に改造されたが、織物市場当時の住居から栄養食配給所の事務所へと変化した時代の痕跡を残す貴重な遺構となっている。住まいは昭和14年に家族の住まいとして増築されたものである。

本復原工事は、当社のホームページに掲載された寺社仏閣左官工事のしっくり施工の記事を見た地元建設会社社長からのファーストアプローチをきっかけに、2022年4月18日の3回目の見積提出を経て受注に至った。左官工事は、2023年2月に現場に乗り込み、約9ヶ月間の期間を経て2023年10月に完了した。主な左官仕様は、竹小舞組、荒壁塗り、中塗り土塗り、鼠漆喰仕上げ、洗出し仕上げ、そしてレンガ竈の復原を含むものである。

各施工段階における主なポイントは以下の通り。



▲川越市文化創造インキュベーション施設(コエトコ)



▲コエトコ内、旧栄養食配給所

①竹小舞組(たけこまいぐみ)

施工は、既存建物の解体前の工法と同じく、竹小舞組から開始された。

材料の調達や伝統工法の施工については、淡路の植田俊彦親方やあじま工芸の阿嶋一浩社長をはじめ、様々な方々から指導を受けながら作業が進められた。